

(2) 人権について

問5 あなた自身や周りの方が、職場、地域、学校などで、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたことがありますか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。（複数回答）

図 12



「セクシュアル・ハラスメントの状況」については、「自分自身が被害にあったことがある」は女性が1割で、年代別では20歳代の19.6%が最も高い。「知人や職場の仲間などに被害にあった人がある」は男性の30歳代から60歳代が約3割でほぼ同数になっているが、女性の40歳以上では年齢が上がるほど低くなる傾向にある。「自分や自分の周りに被害にあった人はいない」のは男性で66.3% (59.4%)、女性で65.9% (38.8%) と増加した。

問6 配偶者や恋人などパートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）が社会問題になっています。そこで、（A）と（B）2つの質問にお答えください。（単数回答）

図 13-（A）

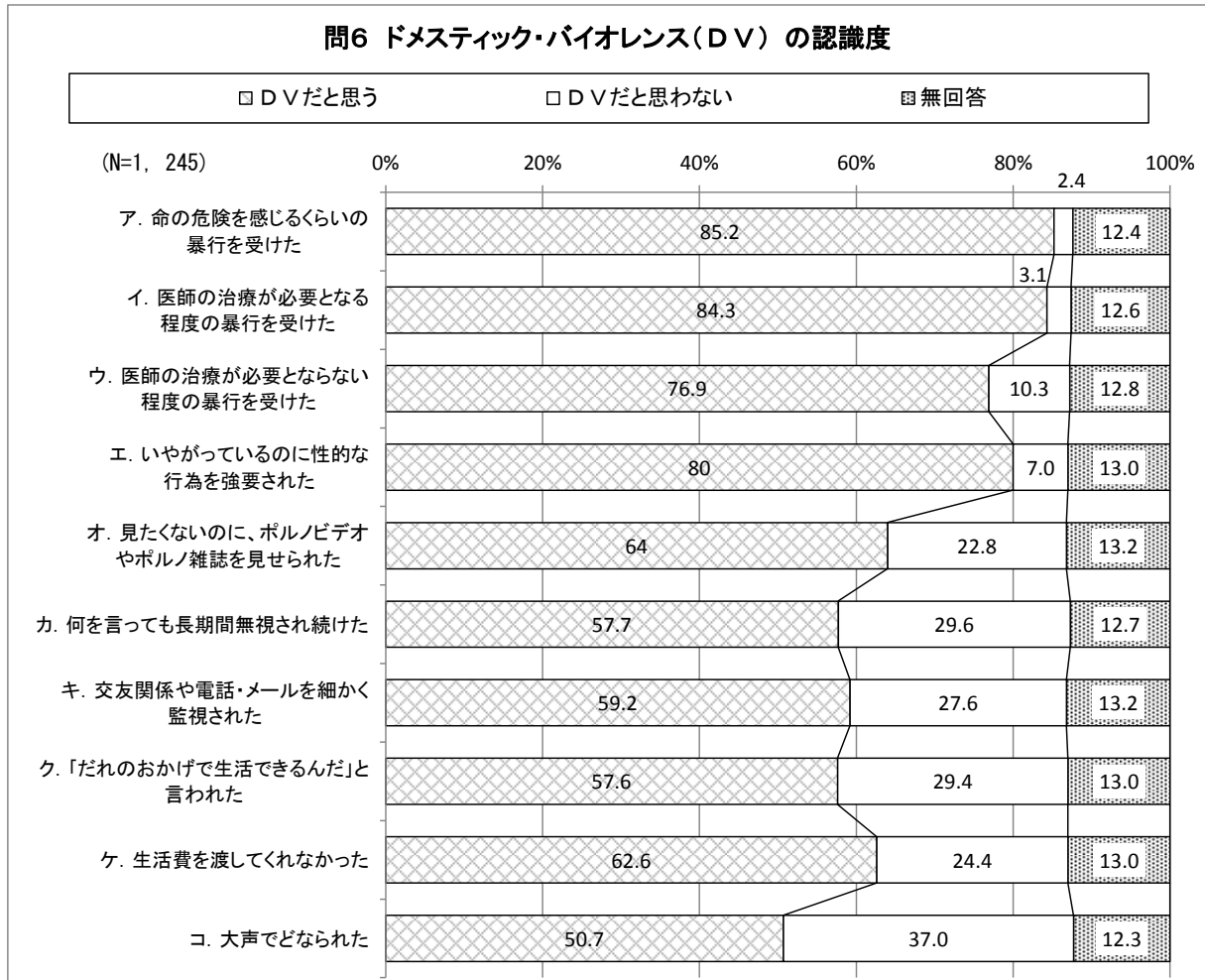


図 13- (A) ア

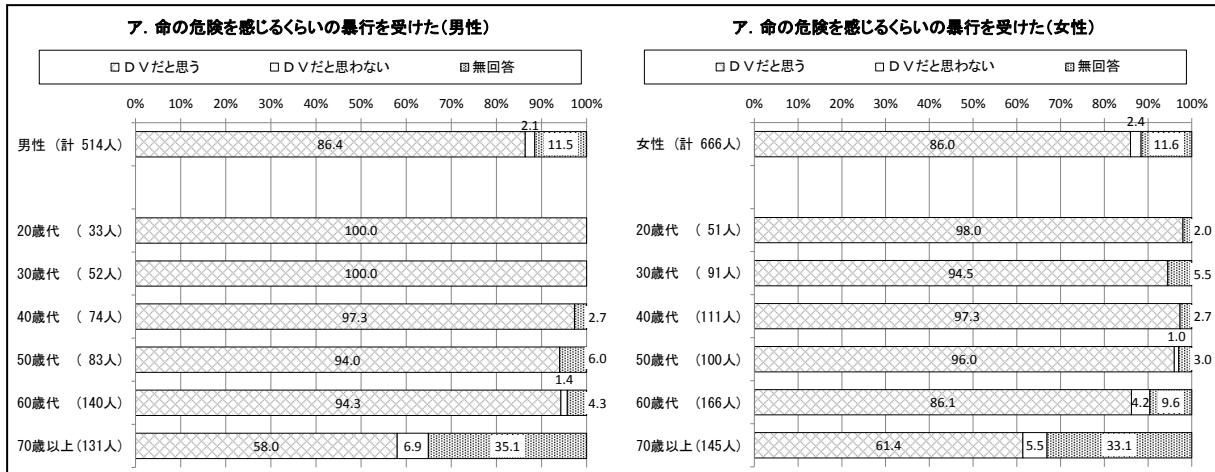


図 13- (A) イ

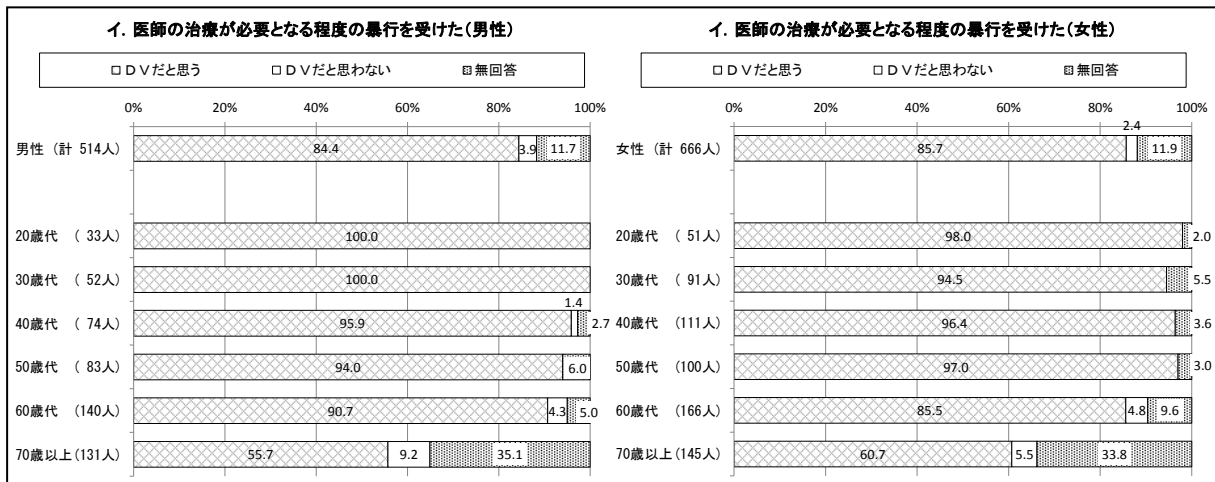


図 13- (A) ウ

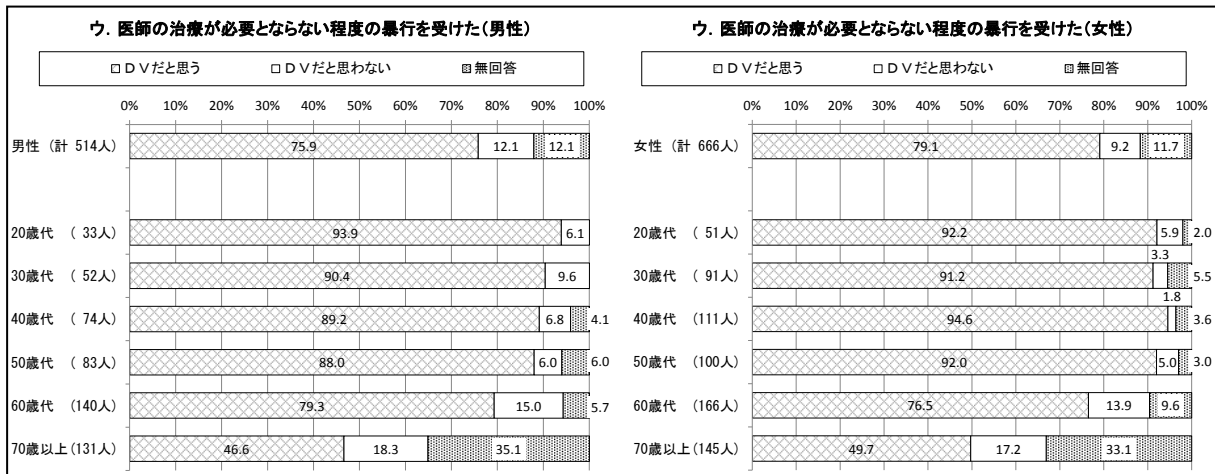


図 13- (A) エ

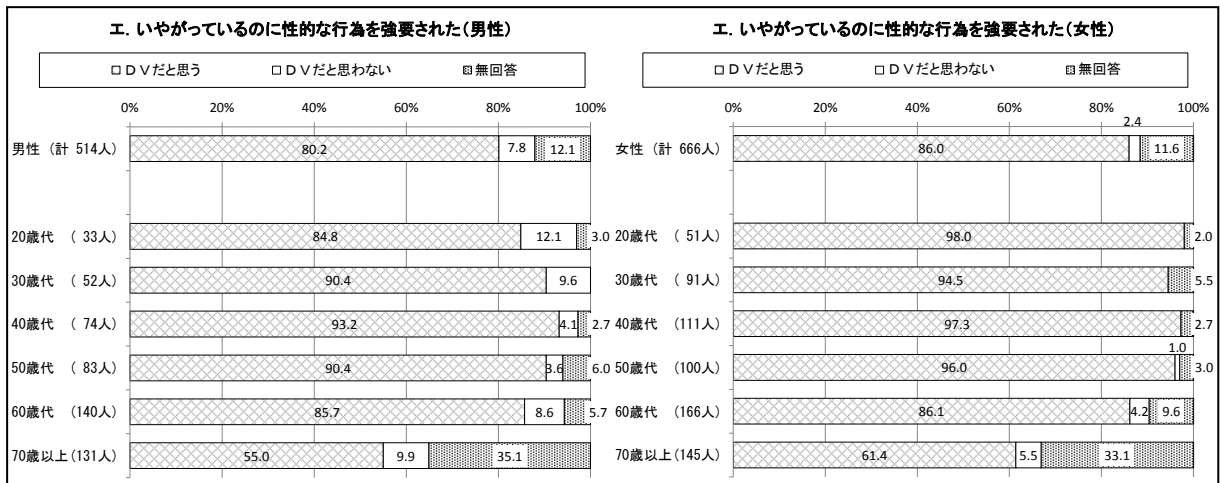


図 13- (A) オ

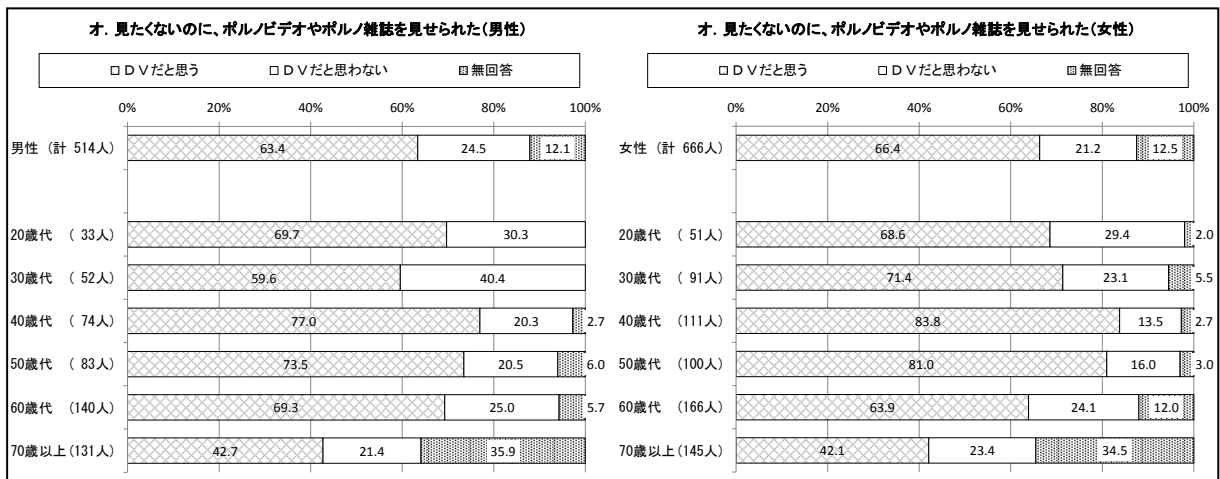


図 13- (A) カ

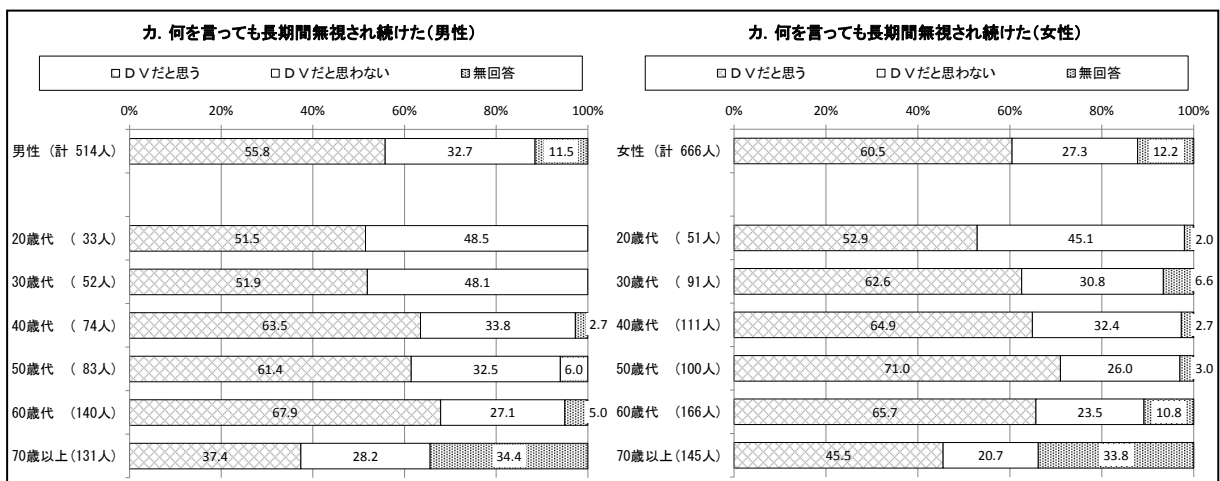


図 13- (A) キ

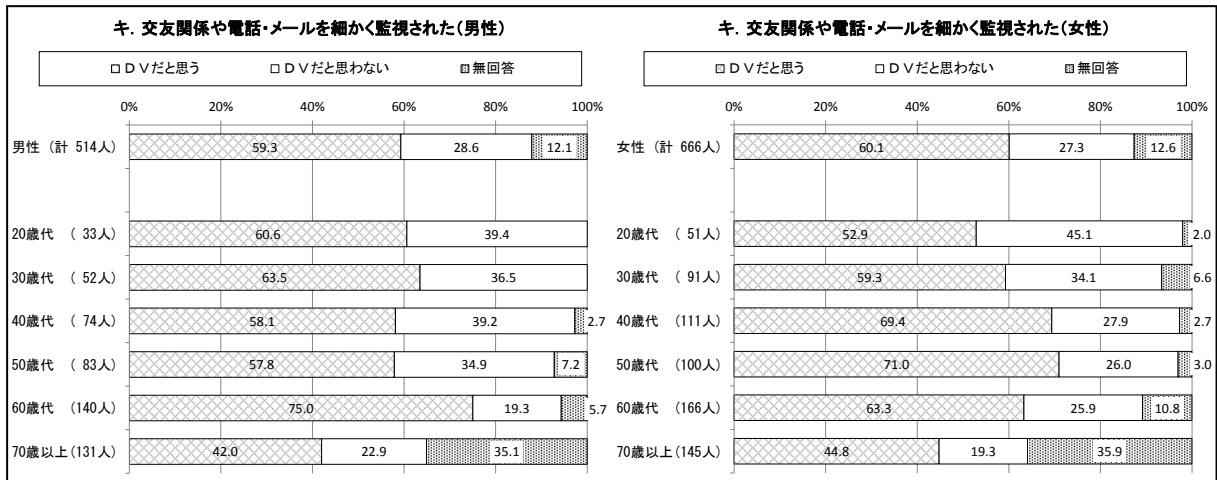


図 13- (A) ク

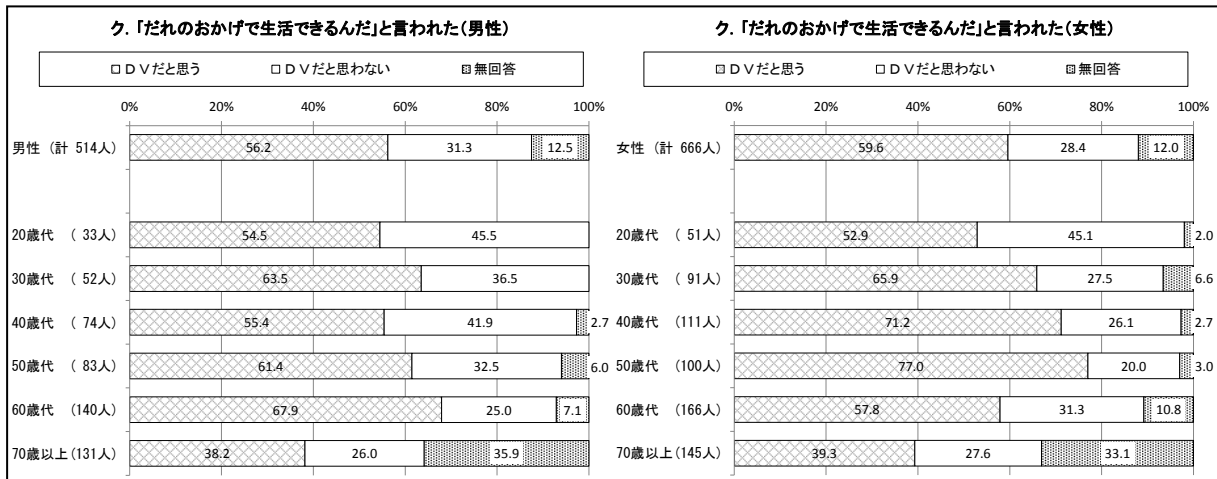


図 13- (A) ケ

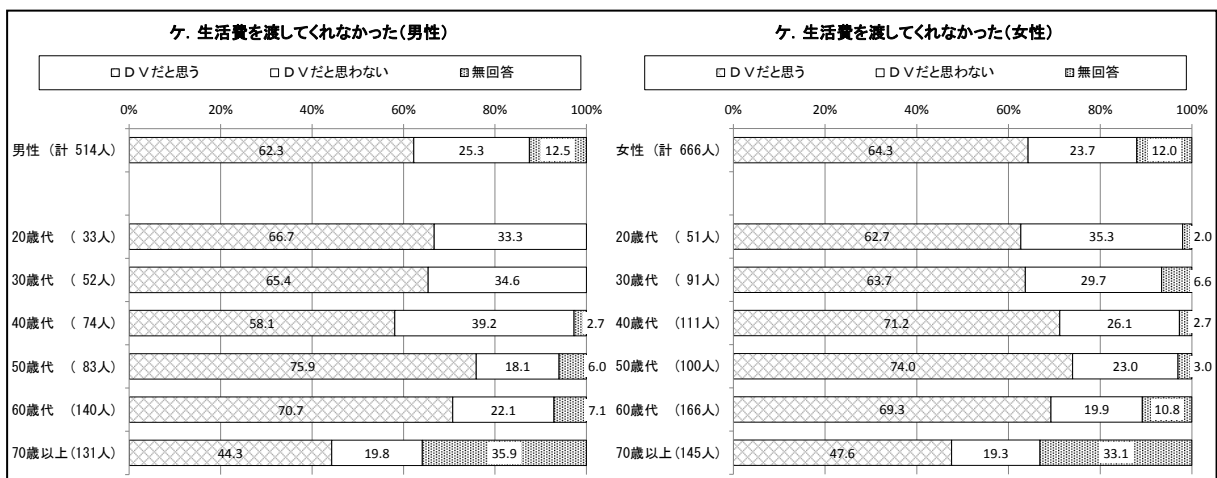
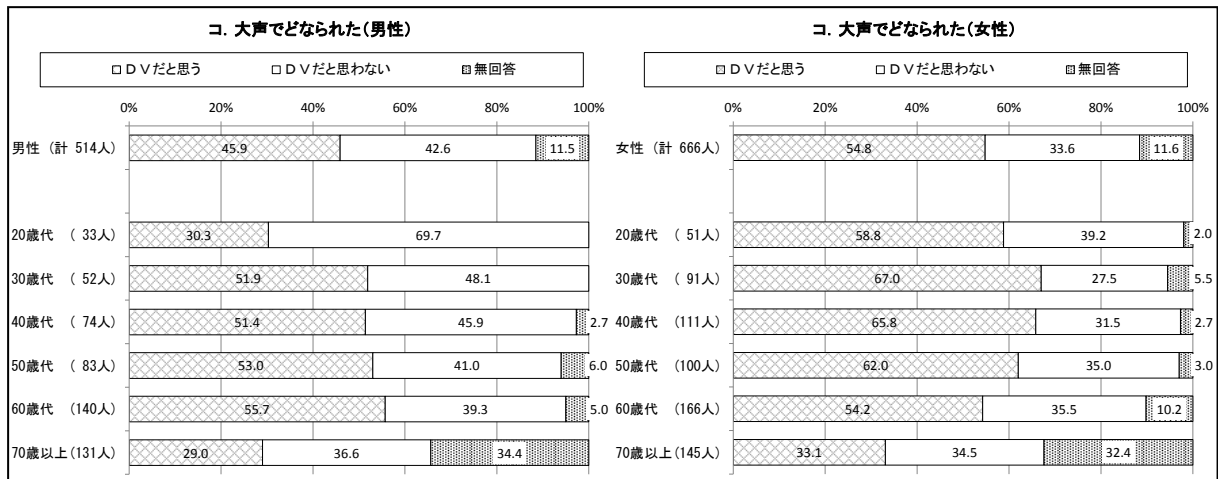


図 13- (A) コ



【図 13- (A)】「ドメスティック・バイオレンス (以下、DV) の認識度」については、「命の危険を感じるくらいの暴行を受けた」、「医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた」は、無回答を除いたほぼ全員が、DVと認識しており、同様に「医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた」は90%近くになる。

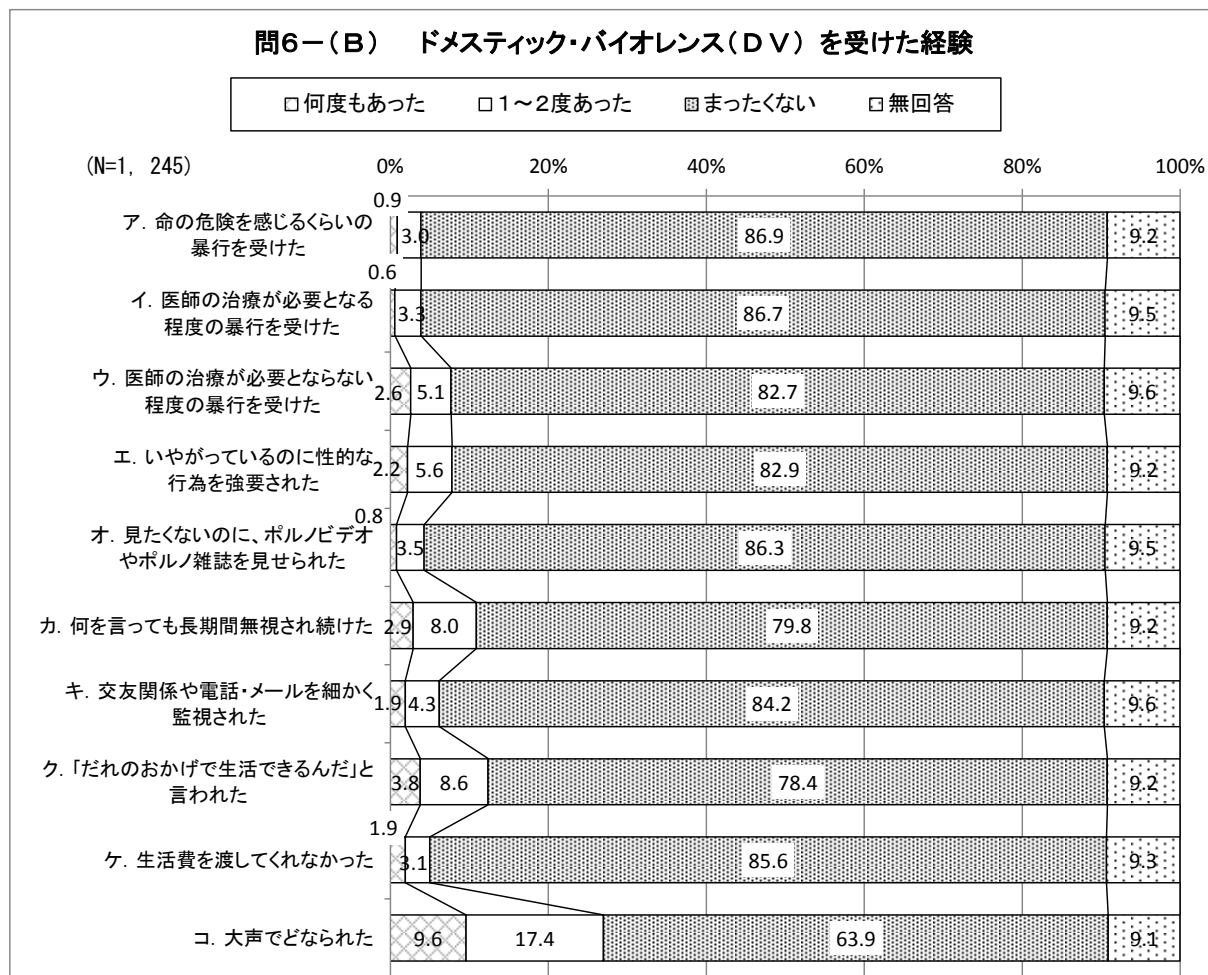
性的暴力にあたる「いやがっているのに性的な行為を強要された」は全体の80.0% (74.9%) 「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた」は64.0% (53.8%) となっている。

また、「生活費を渡してくれなかった」62.6% (51.8%)、「交友関係や電話・メールを細かく監視された」59.2% (48.1%)、「何を言っても長期間無視され続けた」57.7% (45.4%)、『「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた』57.6% (44.5%) 「大声でどなられた」50.7% (39.3%) と全ての項目で1割程度増加しており、認識が高まっているものと思われる。経済的、精神的暴力をDVと認識しているのは、50%から60%程度である。

なお、男女ともに、70歳以上のDVの認識度が他の年代と比べて低く、無回答の割合が高くなっている。前回の調査との比較では、身体的暴力、性的暴力、経済的暴力、精神的暴力のすべてにおいてDVととらえるような認識も高まっている。

問6-(B)あなたは配偶者や恋人などから、ア～コのような行為を受けたことがありますか。(単数回答)

図 13- (B) -1



「ドメスティック・バイオレンス(DV)を受けた経験」については、身体的暴力である「命の危険を感じるくらいの暴行を受けた」経験が「何度もあった」、「1~2度あった」の回答は、3.9% (2.6%)、「医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた」は 3.9% (2.8%)、「医師の治療が必要とされない程度の暴行を受けた」が 7.7% (7.8%) である。各項目において少数ではあるが、複数回にわたり同様の被害を受けているケースもあり、また前回の調査より重篤なケースは増加している。精神的暴力では、「大声でどなられた」が 27.0% (28.6%)。「何を言っても長期間無視され続けた」が 10.9% (12.0%)、「交友関係や電話を細かく監視された」6.2% (8.3%) といずれも前回調査より減少している。また、性的暴力では「いやがっているのに性的な行為を強要された」は 7.8% (8.7%)、「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた」は 4.3% (5.2%) と同様に減少傾向にある。

図 13- (B) -2

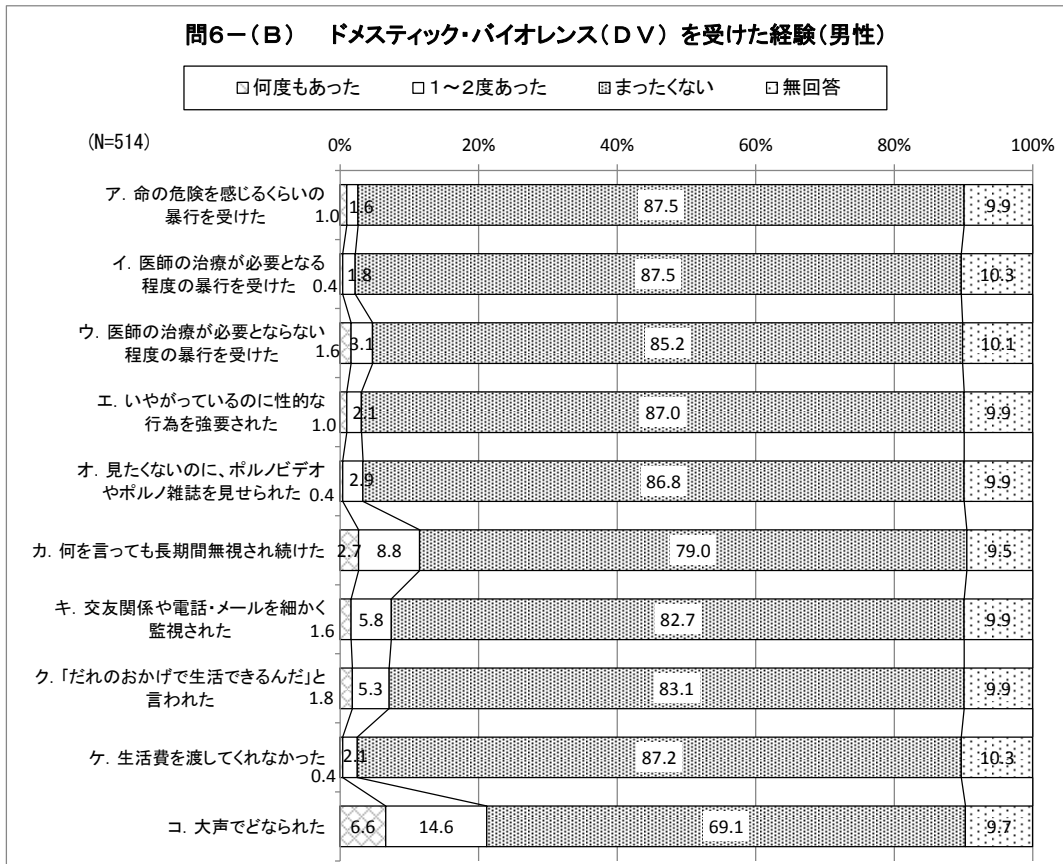
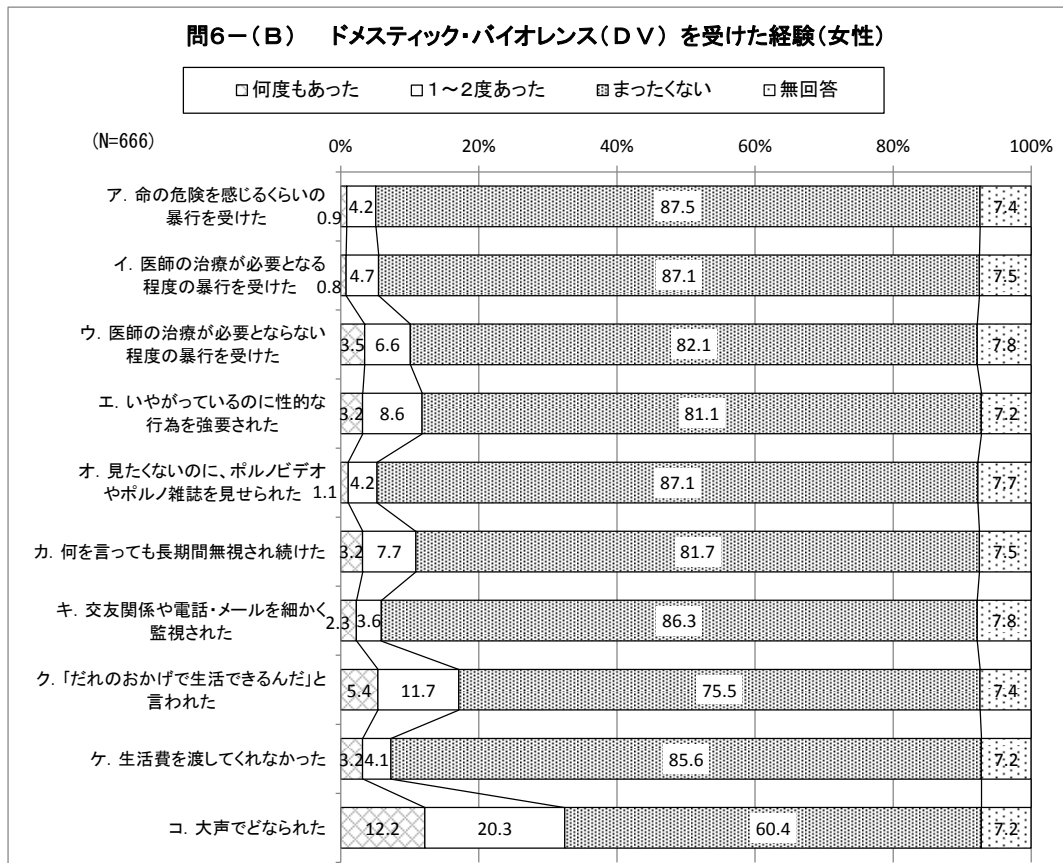


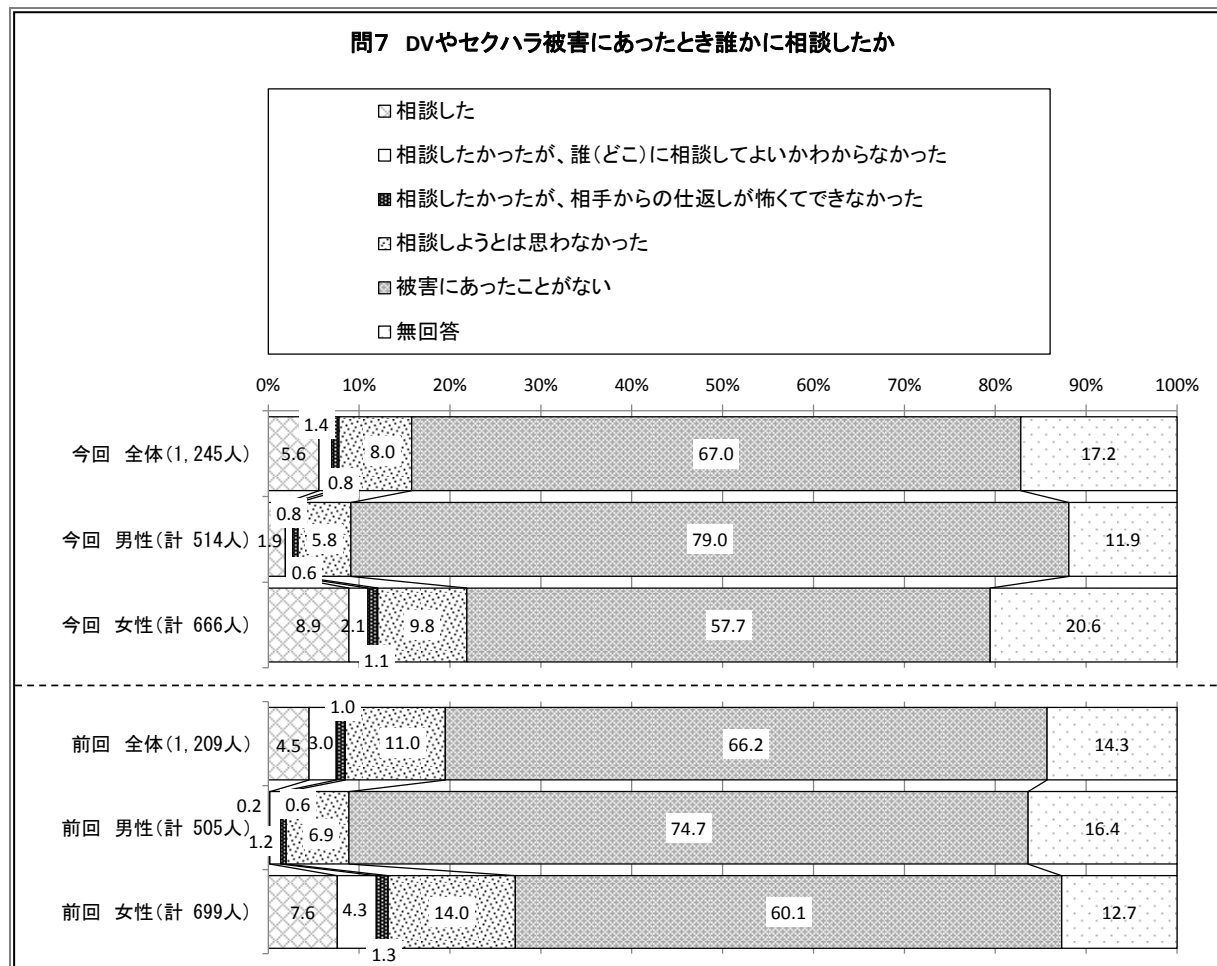
図 13- (B) -3



性別でみると、「何を言っても長期間無視され続けた」、「交友関係や電話・メールを細かく監視された」を除き、いずれも女性の方が被害にあった割合が高い。女性の被害では、「医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた」は、10.1%（11.1%）あり、また「いやがっているのに性的な行為を強要された」も11.8%（13.0%）であり、表面化しにくい暴力を受けている女性が10%程度あることがわかる。『「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた』17.1%（16.5%）、「大声でどなられた」32.5%（36.8%）の割合が高くなっている。

問7 あなたがドメスティック・バイオレンス(DV)やセクシュアル・ハラスメントの被害にあったとき、誰(どこ)かに相談しましたか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。(単数回答)

図 14-1



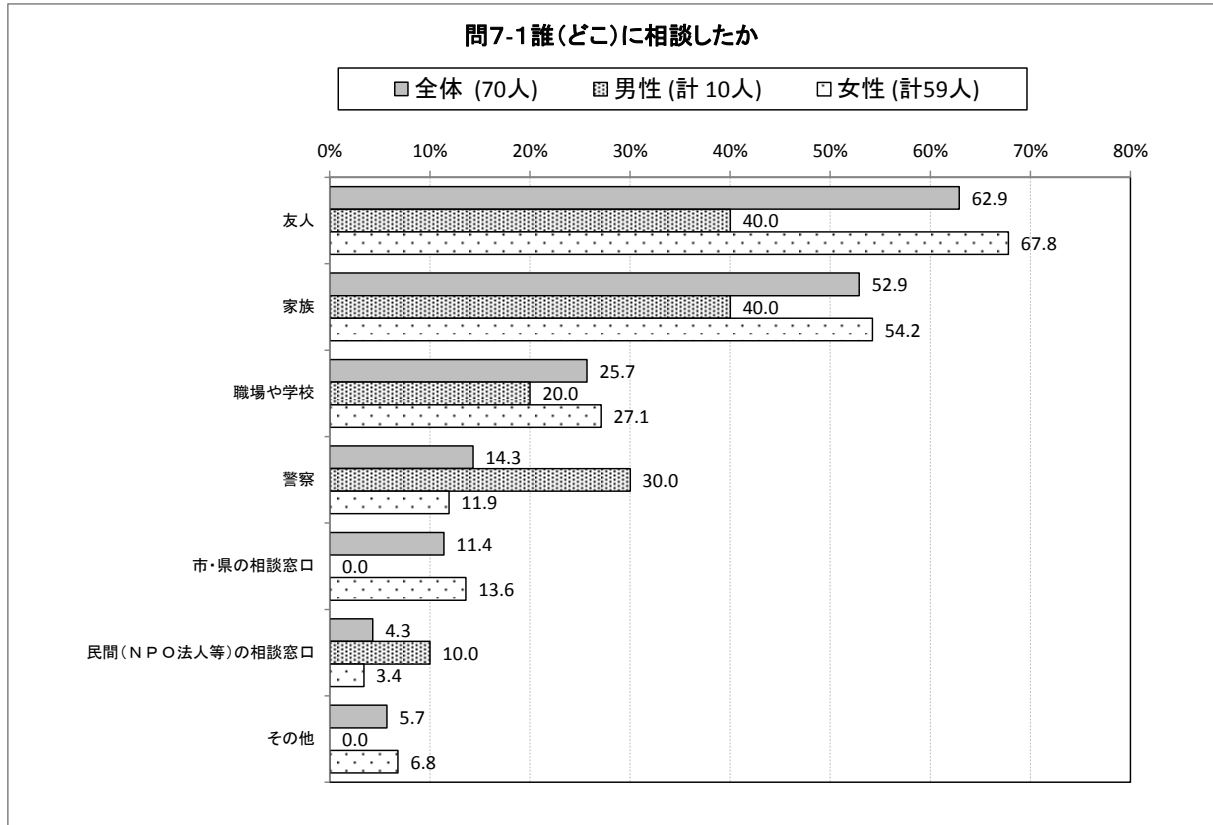
DVやセクシュアル・ハラスメントの被害時の相談であるが、「相談をした」は全体で 5.6% (4.5%)、※DVやセクハラ被害にあったことのある人のうちの 35.4% (23.0%) であり、これは前回の調査より若干増えている。

「相談したかったが、誰(どこ)に相談してよいかわからなかった」は全体で 1.4% (3.0%)、※DVやセクハラ被害にあったことのある人のうちの 8.9% (15.4%) であり、前回の調査よりも大きく減少した。

※DVやセクハラ被害にあったことのある人とは、「相談した」「誰(どこ)に相談してよいかわからなかった」「相手からの仕返しが怖くてできなかった」「相談しようとは思わなかった」と回答した人の割合から算出した。

問7-① 問7で「1. 相談した」を選ばれた方におたずねします。誰（どこ）に相談しましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。（複数回答）

図 14-2



DV やセクシュアル・ハラスメントの被害時の相談を誰（どこ）にしたかについては、「友人」は全体で62.9%、「家族」は52.9%となっており、まずは親しい人へ相談している。